



必ず守っていただきたいこと

ここでは「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法を記載しております。

本内容は、乗用車のセダンタイプのものを表しており、車種・グレードによりお使いいただけない機能や装備等が含まれている場合があります。

また、イラストも実際の車両と異なる場合があります。詳しくは取扱書をお読みください。

安全・快適ドライブのために 2

1. 点検整備実施のお願い	3
2. お出かけ前の注意	4
3. 燃料補給時の注意	9
4. 走行するときの注意	11
5. 走行中、異常に気付いたら	19
6. 駐停車するときの注意	22
7. 排気ガスに対する注意	24
8. お子さまを乗せるときの注意	26

安全装備について 30

1. シートについての注意	31
2. 子供専用シートについての注意	36
3. シートベルトについての注意	40
4. SRSエアバッグについての注意	46
5. ABS & ブレーキアシストについての注意	53
6. VSC & TRCについての注意	54

運転装置について 55

1. オートマチック車についての注意	56
2. 4WD車についての注意	60
3. レーダークルーズコントロールについての注意	63
4. スマートエントリー & スタートシステム についての注意	67

メンテナンスについて 68

1. 点検・手入れ時の注意	69
2. タイヤについての注意	71
3. バッテリーについての注意	77
4. ジャッキアップについての注意	79

オーバーヒート・万一の事故 82

1. オーバーヒートについての注意	83
2. 万一の事故のときの注意	84

その他の注意 86



目次

警告

目次

安全・快適ドライブのために 2

1. 点検整備実施のお願い	3
2. お出かけ前の注意	4
3. 燃料補給時の注意	9
4. 走行するときの注意	11
5. 走行中、異常に気付いたら	19
6. 駐停車するときの注意	22
7. 排気ガスに対する注意	24
8. お子さまを乗せるときの注意	26

▶具体的な発生事例



1. 点検整備実施のお願い

点検整備を必ず実施してください。
実施していただかないと、重大な車両
故障につながるおそれがあり危険です。



① 点検整備を必ず実施してください。



- 日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。
 - ・ 定期点検は、安全の確保・公害防止の観点から、定期的に実施する点検です。
 - 定期点検整備は、専用の整備機器、指定の油脂類、交換された部品・油脂類の適切な処理などが必要なため、トヨタ販売店にご相談ください。
- 点検整備は自動車の健康診断です。

定期的な点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施することが、未永く車と付き合っていくうえで最も大切なことです。
- 点検整備を実施しないと、例えばエンジンオイルの不足・劣化によりエンジン内部が焼き付きなどを起こすおそれがあります。また、ブレーキパッドやブレーキディスクなど、その役割を果たすと共に摩耗していく部品については、使用限度(摩耗限度)をこえての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結び付くおそれもあります。
- 日常点検で異常があつたり、車の調子が悪い場合には、トヨタ販売店にご相談ください。



お出かけ前に、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



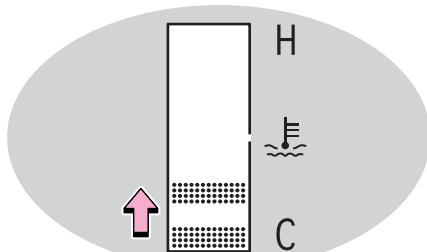
①窓ごしなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

- 思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。

**②エンジンの始動操作をしたときに、エンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点滅したときは、絶対に車両を走行させないでください。
(スマートエントリー & スタートシステム装着車)**

- ステアリングロックが解除されていないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

③水温計の表示が動き出すまでは、極端にアクセルペダルをおらないでください。



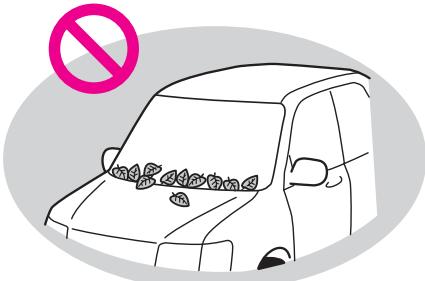
- 暖機不足の状態では触媒装置が未燃焼ガスにより異常燃焼を起こし、損傷するおそれがあります。
- 暖機は水温計の表示が動き出す程度で十分です。

④走行前にすべてのドアまたはトランクが確実に閉まっていることを確認してください。

- ドアまたはトランクが確実に閉まっていないと、走行中にドアまたはトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていないときは、メーター内の半ドア警告灯が点灯すると同時に、ドアウォーニングが表示されます。



- ⑤フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などが付いているときは取り除いてください。



- 外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなり、雨天時など車内の湿度が上がり、ガラスが曇ったりして視界が悪くなるおそれがあります。

- ⑥停車中にハンドル位置を調整したときは、確実に固定されていることを確認してください。



- ハンドルの固定が不十分だと、走行中にハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ⑦運転席足元、運転席下にものを置かないでください。

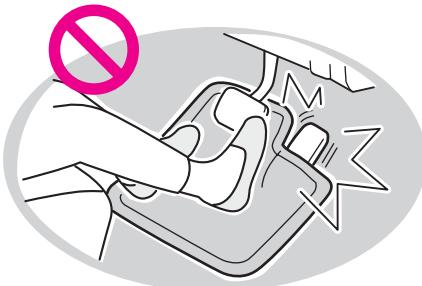


- 空缶などがあると、ブレーキペダルやアクセルペダルに挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、シートの動きがさまたげられたり、シートが固定できず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

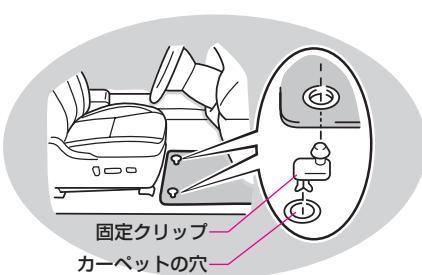


⑧車に合わないフロアマットは使用しないでください。

- フロアマットを正しく敷かなかったり、フロアマットを重ねて敷くと、ブレーキペダルの操作のさまたげになったり、アクセルペダルのもどりが悪くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- 車に合ったものを正しく敷いてください。また、ずれないように固定クリップなどで必ず固定してください。カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取り付け用です。



⑨助手席や後席に荷物を積み重ねたり、パッケージトレイの上に荷物を置かないでください。

- 急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員にあたったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷物はトランクに安定した状態（例えば、トランク前方に均等に）で置いてください。





- ⑩ 燃料が入った容器やスプレー缶などは積まないでください。

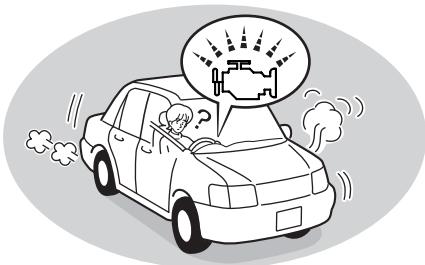


● 万一のとき引火し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

▶ 車両火災を起こさないために

- ⑪ ボンネットを開けて作業などをしたときは、走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。
- ロックせずに走行すると、ボンネットが開いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ⑫ 次の場合には車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。



- いつもと違う音や臭いや振動がするとき
- ハンドル操作に異常を感じたとき
- ブレーキ液が不足しているとき
- 地面に油のもれたあとが残っているとき
- メーター・表示灯・警告灯、ランプ類に異常があるとき



(13)お酒を飲んでの運転は絶対にしないでください。



- 飲酒運転は法律で禁止されています。
- 飲酒運転は非常に危険で、ごく少量のアルコールでも判断力・視力・注意力に影響をおぼし、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

(14)エンジンルーム内および車体床下に、ネコやネズミなどの小動物がいないことを確認してください。

- エンジン始動時、ファンやベルトに小動物が巻き込まれたりして、機能不具合の原因となるおそれがあります。



燃料を補給するときは、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



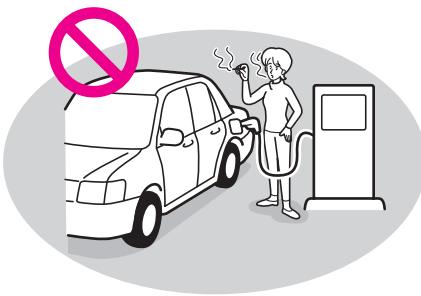
3 燃料補給時の注意

①指定以外の燃料を使用しないでください。



- 指定以外の燃料を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノックングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使用すると、エンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

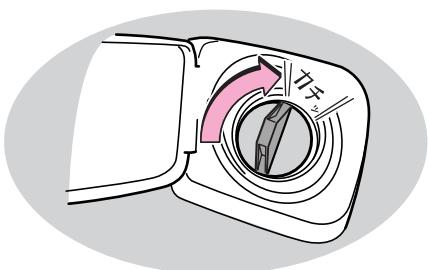
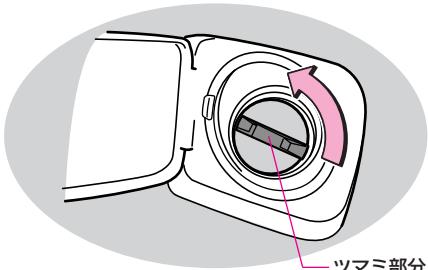
②燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、燃料に引火してやけどなどの重大な傷害におぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- エンジンは必ず停止してください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコなど火気を近付けないでください。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分にふれて体の静電気除去を行ってください。体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。



- フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。
気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
フューエルキャップを少しゆるめたときに“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。その音が止まってからゆっくり開けてください。
- 給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものにふれないでください。(再帯電することがあります)
- 給油口には静電気除去を行った方以外の人を近付けないでください。
- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右にまわし、確実に閉まっていることを確認してください。
- 車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。



▶車両火災を起こさないために

③給油時に気化した燃料を吸わないようにしてください。

- 燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、注意してください。



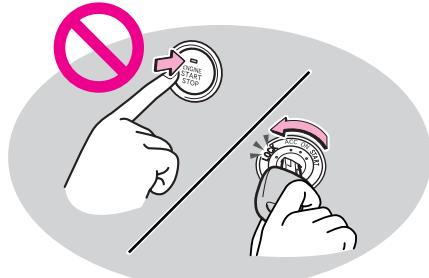
走行するときは、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



4 走行するときの注意

①走行中はエンジンを停止しないでください。



- エンジンがかからっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中、誤ってエンジンスイッチを押し続け、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
(スマートエントリー & スタートシステム装着車)

②走行中はハンドル位置やミラー、運転席シートの調整はしないでください。



- 調整中に運転を誤ったり、シートが突然動くなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ③ドアミラーを倒したまま走行しないでください。**
- ドアミラーによる後方確認ができず思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



④ブレーキペダルに足を乗せたり、パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。



- ブレーキパッドが早く摩耗したり、ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤下り坂ではエンジンブレーキを併用してください。



- ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

⑥車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。

- エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⑦ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。



- パワーステアリングモーターが過熱により損傷するおそれがあります。
- 停車中や微低速走行時にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱい今までまわした状態を長く続けたときには、モーターやコンピューターが熱くなり過ぎることを防ぐため、ハンドル操作が重くなることがあります。この場合、しばらくの間ハンドルを操作しないておくと、ハンドル操作が正常に復帰します。

⑧ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は運転中に使用しないでください。



- ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が運転中に使用することは、法律で禁止されています。
 - 電話をかけるときや、電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が使用するときは、安全な場所に停車してから使用してください。



⑨ぬれた路面や積雪路・凍結路などのすべりやすい路面では、とくに慎重に走行してください。



- すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車を制御できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 寒いとき、橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

⑩冠水した道路は走行しないでください。



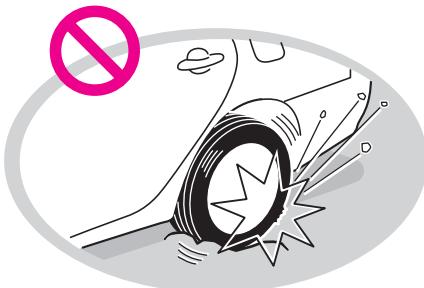
- 冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
 - ・ブレーキの効き具合
 - ・エンジン、トランスミッション、トランスファー（4WD車）、ディファレンシャルギヤなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
 - ・プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

⑪湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、フロントデフロスター・スイッチを押さないでください。

- 外気とウインドウガラスの温度差でウインドウガラス外側表面が曇り、視界をさまたげる場合があります。



⑫スタック *したときは



- スタックからの脱出をこころみるときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで、ものを損傷させたり、人身事故を引き起こすおそれがあり危険です。
 - タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品（ディファレンシャルギヤなど）の異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスマッションやディファレンシャルギヤなどに損傷を与えるおそれがあるため、次のことに注意してください。
 - ・ チェンジレバーを④または⑧に確実に入れてから、アクセルペダルを軽く踏んでください。また、チェンジレバー操作中は、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
 - ・ 過度の空ぶかしやタイヤの空転をさせないでください。
 - ・ 過度にタイヤが空転した場合には、エンジン回転が低くなつてから徐々にブレーキ操作をしてください。
 - ・ 数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。
 - スタック脱出には、次の方法が有効です。
 - ・ タイヤ前後の土や雪を取り除く
 - ・ タイヤの下に木や石などをあてがう
 - けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。スタックしたときは、無理にけん引せず、トヨタ販売店やJ A Fなどに依頼してください。
- * ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなつた状態。

▶車両火災を起こさないために



(13) 洗車後や水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。



- ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

(14) 走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。



- 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

(15) 窓・ムーンルーフから手や顔を出さないでください。



- 走行中、手や顔を出していると、車外のものなどにあたったり、急ブレーキ時に頭を窓枠にぶつけたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ムーンルーフの開口部に腰かけないでください。ルーフがへこんだり、万一のとき車から投げ出され、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(ムーンルーフ装着車)



**(16) ドアガラスやムーンルーフ
(ムーンルーフ装着車) を閉めるときは、他の人の手や頭などを挟まないように注意してください。**



●ドアガラスやムーンルーフに挟まれると、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**(17) ムーンルーフから荷物がはみ出さないようにしてください。
(ムーンルーフ装着車)**

●車外のものにあたるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

(18) グローブボックスや小物入れなどのフタを開けたまま走行しないでください。

●急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

(19) ウィンドウガラスにアクセサリーを取り付けたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上にものを置いたまま走行しないでください。



●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に安全運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⑳大きな段差がある場所では慎重に走行してください。



●次のような場所を走行するときは、バンパーを損傷するおそれがありますので、スピードを落として慎重に走行してください。

- ・駐車場の出入り口などの段差のある場所を通過するとき
- ・立体駐車場のスロープなど勾配が急な場所を走行するとき
- ・輪止めなどのある場所や、路肩に沿って駐停車するとき
- ・凹凸やわだちのある道を走行するとき
- ・くぼみ（穴）などを通過するとき
- ・平坦な道から上り坂・下り坂に進入するとき、または上り坂・下り坂から平坦な道に进入するとき

㉑半ドア警告灯が点灯したまま走行しないでください。

●ドアまたはトランクが確実に閉まっていないため、走行中に開いて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



5. 走行中、異常に気付いたら

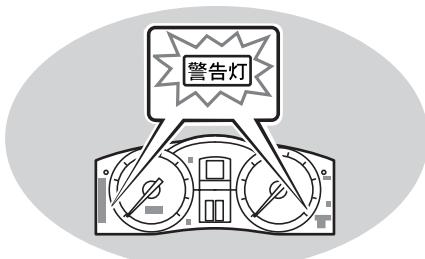
走行中、異常に気付いたら、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



5 走行中、異常に気付いたら

- ①警告灯が点灯・点滅したら、
安全な場所に停車し、ただちに
処置してください。



●点灯・点滅したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。警告灯の内容を確認し、適切な処置をしてください。

- ②ブレーキ警告灯が点灯したまま
走行し続けないでください。



ブレーキ警告灯

- 警告灯が次のように变成了ときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。
- ・エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき
この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。
 - ・ブレーキ警告灯がA B S & ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのとき
この場合、A B S、ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。



③エンストしたときは、落ち着いて操作してください。

●エンストしたときは、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングのモーター装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。

この場合は、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れて操作し、周囲の安全を確かめ、路肩に寄せて停車してください。



④走行中にタイヤが、パンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。

●ハンドルをしっかりと持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●次のようなときはパンクやバーストが考えられます。

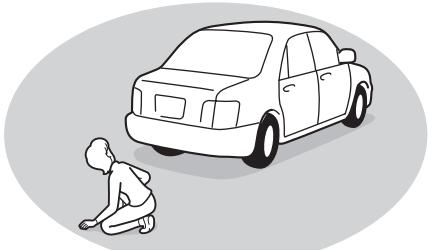
- ・ハンドルがとられるとき
- ・異常な振動があるとき
- ・車両が異常に傾いたとき

●パンクしたまま走行しないでください。

パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイールやサスペンション・車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。



⑤車体床下やタイヤ・ディスクホイールに強い衝撃を受けたら、ただちに安全な場所に車を止めて、下まわりを点検してください。



- ブレーキ液や燃料がもれたり、サスペンション部品、タイヤ・ディスクホイール、駆動系部品などの変形や損傷の可能性があるため、そのままの状態で使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- もれや損傷が見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店にご相談ください。

⑥走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。



- 警告音は、ブレーキパッドウェアインジケーターによるもので、走行中にキーキー音を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近付いたことを運転者に知らせます。警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



6. 駐停車するときの注意

警告

6 駐停車するときの注意

駐停車するときは、次の事項を必ず守つてください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止し、施錠してください。

- 車から離れるときは、必ずエンジンを停止して、施錠することが法律で義務付けられています。また、車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。
- 車から離れるとき、以下のことを守ってください。お守りいただかないと、車が無人で動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・エンジンレバーをPにする
 - ・パーキングブレーキをかける
 - ・エンジンを停止する
 - ・ドアを施錠する



②可燃物付近に車を止めたりしないでください。

- 車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災につながるおそれがあり危険です。
- 木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を十分離して止めてください。すき間が少ないと、排気ガスによって変色や変形したり、火災につながるおそれがあり危険です。
- 枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると、火災につながるおそれがあり危険です。



③停車中に空ぶかしをしないでください。



- 排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

④炎天下で駐車するときは、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置したままにしないでください。



- 車内が大変高温になるため、ライターやスプレー缶のガスが自然にもれたり、破裂したりして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 炭酸飲料の缶が破裂したりして室内を汚したり、電気部品のショートの原因となるおそれがあります。
- 車内が大変高温になるため、プラスチックレンズやプラスチック素材のメガネの変形・ひび割れを起こすことがあります。

⑤仮眠するときは、必ずエンジンを停止してください。



- エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にエンジンレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の急発進による事故や、エンジンの異常過熱による車両火災につながるおそれがあり危険です。
- また、排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

▶車両火災を起こさないために



7. 排気ガスに対する注意



7 排気ガスに対する注意

排気ガスには無色、無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むとガス中毒になるおそれがあります。

ガス中毒を防ぐために、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ①換気が悪い場所では、エンジンをかけたままにしないでください。



- 車庫内など囲まれた場所では、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により一酸化炭素中毒となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

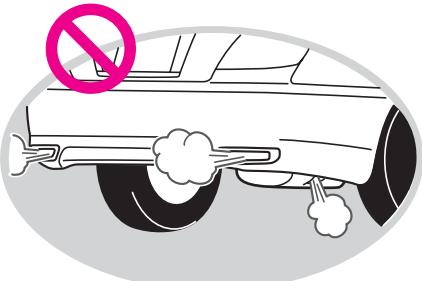
- ②雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。



- エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



③排気管はときどき点検してください。



- 排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると、排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

④トランクを開けたまま走行しないでください。



- 開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

⑤車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、次の処置をしてください。



- すべての窓を全開にして新鮮な外気を車内に入れてください。
- すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスにより一酸化炭素中毒になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



8 お子さまを乗せるときの注意

お子さまを乗せるときは、次の事項を必ず守ってください。

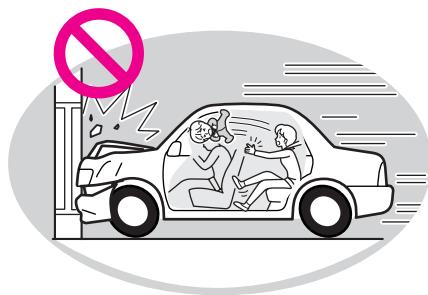
お守りいただかない、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

① お子さまはリヤシートに座らせてください。



- 助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置にふれて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お子さまをリヤシートに座らせたときは、チャイルドプロテクターを使用してください。お子さまが誤って車内からドアを開けることを防止できます。

② お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。



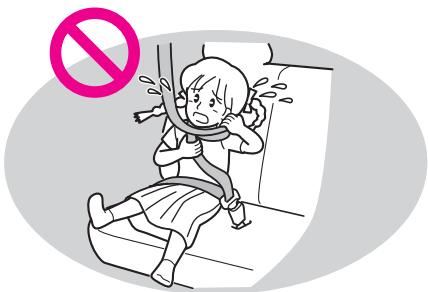
- ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。



- シートベルトの肩部ベルトが首やあごにあたったり、腰部ベルトが腰骨にからないような小さなお子さまには、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。
子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。



③お子さまをチャイルドシート固定機構付シートベルトで絶対に遊ばせないでください。



- チャイルドシート固定機構付シートベルトは、チャイルドシートを固定するときに使用する機構で、ベルトを最後まで引き出すと、巻き取る方向のみ作動（ロックモード）します。
- お子さまがシートベルトで遊んで誤って作動させ、万一、ベルトが首に巻き付いた場合、ベルトを引き出すことができなくなり、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
万一、誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。



④ ドア・ドアガラス・ムーンルーフなどはお子さまに操作させないでください。



- お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドプロテクターやウインドウロックスイッチを使用して、お子さまが誤って操作しないようにしてください。
また、ドアガラスを開けるときや閉めるときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないように注意して操作してください。

⑤ トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。



- トランクは中から開けることができません。閉じ込められると、熱射病などにより、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。トランクには人を絶対に乗せないでください。



⑥車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。



- 炎天下の車内は大変高温となり、お子さまを残しておくと、熱射病や脱水症状となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまを残しておくと、マッチ・ライター・発炎筒の火遊びによる車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 電子キーを車内に置いたまま車内にお子さまを残しておくと、パワーウィンドウやムーンルーフのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対に電子キーを車内に置いたままお子さまを車内に残さないでください。
(スマートエントリー & スタートシステム装着車)
- エンジンスイッチにキーを付けたまま車内にお子さまを残しておくと、パワーウィンドウのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対にキーを付けたままお子さまを車内に残さないでください。
(スマートエントリー & スタートシステム非装着車)





警告

目次

安全装備について



目次

安全装備について 30

1. シートについての注意	31
2. 子供専用シートについての注意	36
3. シートベルトについての注意	40
4. SRSエアバッグについての注意	46
5. ABS & ブレーキアシストについての注意	53
6. VSC & TRCについての注意	54

▶具体的な発生事例



1. シートについての注意

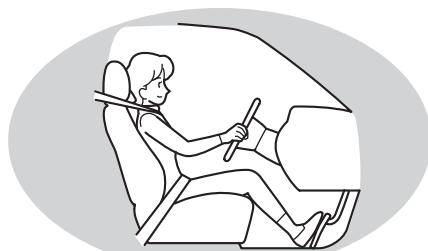


1 シートについての注意

- ①シートは正しい運転姿勢が取れるように位置を調整してください。**

シートについては、次の事項を必ず守つてください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 正しい運転姿勢をとらないと、運転操作を誤り思わぬ事故につながるだけでなく、シートベルト・SRSエアバッグ・ヘッドレストなどの効果が発揮されず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ②シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。
(マニュアルシート)**



- 固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ③走行中は運転席シートの調整をしないでください。**

- 調整中にシートが突然動き運転を誤り、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ④フロントシートの下にものを置かないでください。**

- ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因になります。



⑤背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。



- 必要以上に背もたれを倒していると、衝突、または追突されたとき、腰部ベルトが腰骨からずれ、体がシートベルトの下にもぐり込み、強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑥背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。



- 正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑦ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。



- 衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。フロントシートのヘッドレストは、ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。リヤシートのヘッドレストは、ヘッドレストを必ず上げた状態で使用してください。



⑧フロントシートにはSRSサイドエアバッグが内蔵されていますので、取り扱いに注意してください。

(SRSサイドエアバッグ & SRSカーテンシールドエアバッグ
装着車)

●不適切に扱うと正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑨ヘッドラストは、それぞれのシート専用です。取り付けるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。

●ヘッドラストを間違って取り付けると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑩リヤシートの背もたれを操作するときは、次のことをお守りください。

●リヤシートをリクライニング操作するときは、可動式パッケージトレイとまわりの部品の間に指や腕などを入れないように注意してください。指や腕などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●背もたれをもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。
シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑪シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でチェンジレバーをPに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。

●シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でチェンジレバーをPに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。不整地や傾斜地では、操作中に不意にシートが動き、手や足などを挟まれ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●走行中はシートアレンジ操作をしないでください。

ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●倒した背もたれの上に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⑫フラットシートにしたときは、次のことをお守りください。

- フラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- フラットにしたとき、またはもとにもどしたときは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑬リヤシートの背もたれを前倒しするとき、またはもどしたときは、次のことをお守りください。

- 倒した背もたれの上やトランクルームに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- リヤシートを前倒ししたときは、お子さまがトランクルームに入らないように注意してください。ボディの突起にあたるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 背もたれをもとにもどしたときは、軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、トランクルーム内のものが飛び出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 背もたれをもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると、衝突したときにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 背もたれをもどすときは、可動式パッケージトレイとまわりの部品の間に指や腕などを入れないように注意してください。指や腕などを挟み、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⑯ **シートヒーターを使用中、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので、十分注意してください。（シートヒーター装着車）**

- 次に相当する方が使用される場合は、ヒーター使用中、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので十分注意してください。
 - ・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
 - ・皮膚の弱い方
 - ・疲労の激しい方
 - ・深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用された方
- 毛布や座ぶとんなど保温性の良いものをかけた状態で使用しないでください。シートが異常に過熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあり危険です。
- 仮眠するときは使用しないでください。シートが異常に過熱し、低温やけどをするおそれがあります。



2. 子供専用シートについての注意

①車のシートベルトが正しく着用できない小さなお子さまには、体に合った子供専用シートに座らせてください。

- 乳児は、頭や首を含め完全な安全保護サポート（ベビーシート）が必要です。
乳児の首は安定していなくて、また頭は他の部分に比べて極めて重いからです。
乳児は、必ず適切なベビーシートに座らせてください。
- 幼児の体形は、シートベルトの設計対象となっている大人とは異なっています。
幼児の骨盤は小さく、通常のシートベルトでは骨盤の低い位置にとどまらず、腹部にかかりてしまいます。衝突した場合に、シートベルトによって腹部に強い圧迫を受け重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
幼児は必ず適切な子供専用シートに座らせてください。

②子供専用シートをご使用になるときは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってご使用ください。

子供専用シートについては、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかない、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。
- 子供専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。



③子供専用シートは確実に固定できるように取り付けてください。

子供専用シートは、取り付け位置や取り付け方向に注意をして確実に取り付けてください。取り付けが不適切な場合、急ブレーキや衝突したときなどに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

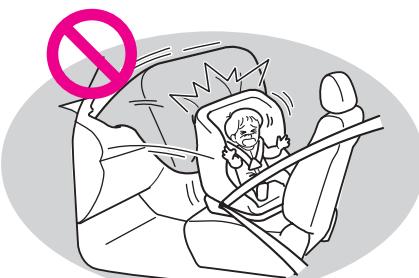
■子供専用シートはリヤシートに取り付けてください。

- リヤシートには子供専用シートの取り付け装置も装備されています。
- 運転席側リヤシートで、運転席の位置により、安全に取り付けられる十分なスペースが確保できない場合は、子供専用シートを無理に取り付けず、助手席側リヤシートに取り付けてください。

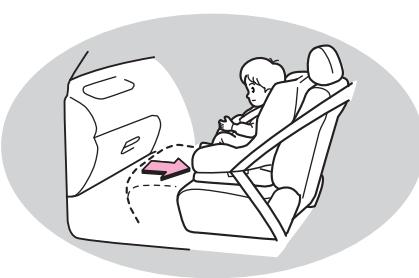


■助手席には、子供専用シートをうしろ向きに絶対に取り付けないでください。

- うしろ向きに取り付けた場合、助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。



- やむを得ず、助手席に前向きに子供専用シートを取り付ける場合には、助手席SRSエアバッグがふくらんだときの衝撃を少しでも緩和させるため、助手席シートの前後位置調整をいちばんうしろにして取り付けてください。お守りいただかないと、助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、お子さまに強い衝撃が加わり危険です。



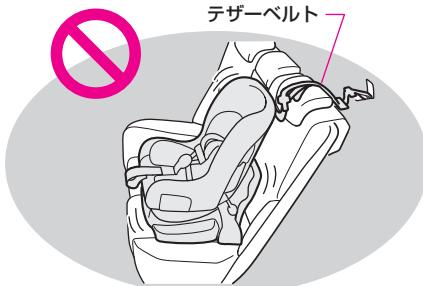
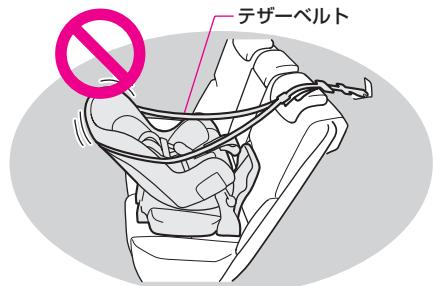


■ ISO FIX対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカーで固定する子供専用シート（チャイルドシート・ベビーシート）を取り付けるときは、固定専用バーおよびアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。

●異物やシートベルトなどをかみ込むと、子供専用シートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 子供専用シートを取り付けるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力をかけてください。

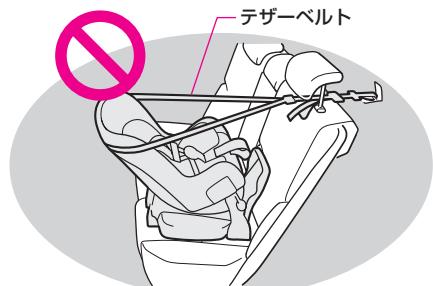
●テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ テザーベルトは必ずヘッドレストの上を通してください。

(可動式ヘッドレスト装着車のみ)

●ヘッドレストの下を通すと、子供専用シートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。





- ④子供専用シートを使用しないときは、シートにしっかりと取り付けるか、トランクに収納してください。



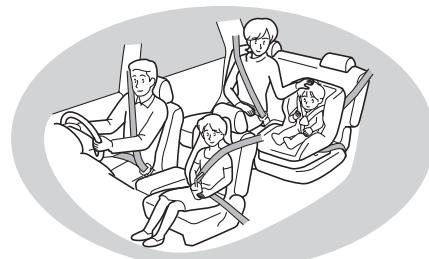
- シートから取りはずしたまま室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員やものなどにあたるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



3. シートベルトについての注意

①車に乗るときは、全員がシートベルトを正しく着用してください。

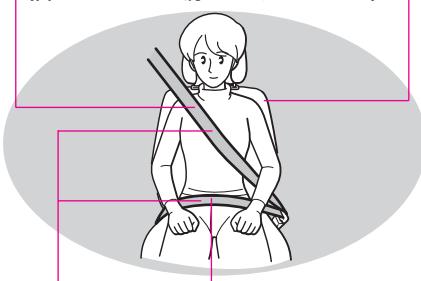
●シートベルトを着用しなかったり、正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに体がシートに保持されず、体をぶつけたり、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。また、車外に投げ出されたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●背もたれを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること

肩部ベルト

●肩に十分かけること
(首にかかったり、肩からはずれないこと)



腰部ベルト

●必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

●ねじれていないこと

〈正しい着用のしかた〉



- シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰かけた状態で着用してください。
- シートベルトの肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。

- シートベルトの肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるように着用してください。
- ベルトを通す位置が間違っていると、衝突時に、腹部などに強い圧迫を受け危険です。



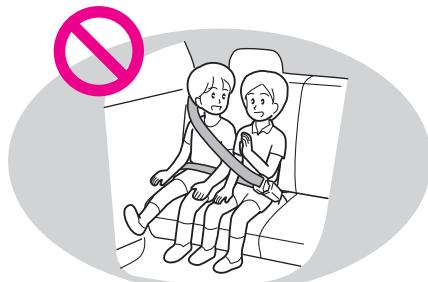
- フロントシートではアジャスタブルシートベルトアンカーを確実に調整してください。
- シートベルトが首にあたらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。
- シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。

- シートベルトの腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときに、腹部などに強い圧迫を受け危険です。



- シートベルトは必ず1人で1本のベルトを着用してください。

- 2人以上で1本のシートベルトを着用すると、シートベルトが衝撃を分散できないばかりか、2人がぶつかり合うなどして危険です。

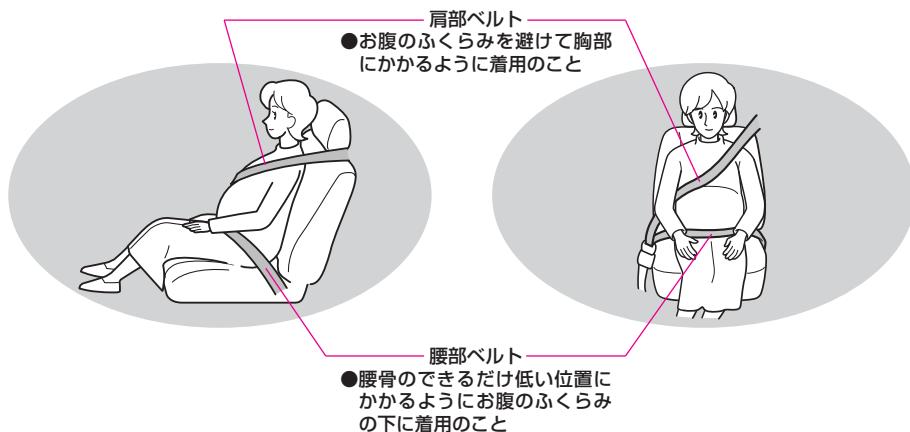




②妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

- 妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
- ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



③疾患のある方も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。



- ④シートベルトは、ねじれやゆるみがなく確実にロックされた状態で着用してください。



正しい運転姿勢でもシートベルトがねじれていたり、ゆるんでいたり、確実にロックをしていない場合には、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができず危険です。
- ベルトがねじれている場合は、正しく装着できるようほどいてください。ねじれがうまくほどけない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

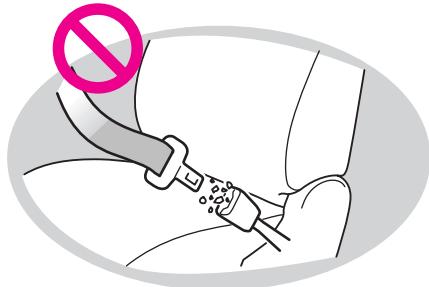
■洗濯ばさみやクリップなどでシートベルトにたるみを付けて使用しないでください。

- 肩部ベルトがゆるすぎると、衝突の際、ベルトで体が拘束されるまでの移動量が大きくなり、頭をハンドルにぶつけたり、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。



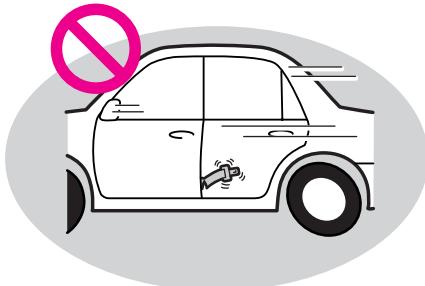
- プレートをバックルに挿し込むときは、プレートとバックルが“カチッ”と音がして確実にかみ合っていることを確認してください。

- 異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトがはずれて危険です。





- ⑤シートベルトを損傷させたり、
損傷したシートベルトは使用
しないでください。



損傷したシートベルトをそのまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。挟まると傷が付くおそれがあり、そのまま使用すると危険です。

■ほつれ、すり切れができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷付いたシートベルトは使用しないでください。衝突したときなどに本来の機能が十分発揮できなくなります。

●このまま使用すると、衝突のときなどにベルトが切れる可能性があります。また、正常に働くかず、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。

●シートベルトが正常に機能しない場合は、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。



■シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどをしないでください。

●衝突したときなどにシートベルトが正常に作動しなくなります。シートベルトの取り付け・取りはずし・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。



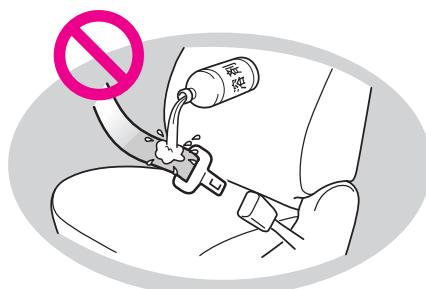
■プリテンショナー付シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどはしないでください。

- プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがありますので、修理は必ずトヨタ販売店で行ってください。



■シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。強度が低下します。

- シートベルトの性能が低下し、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。
- 清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。



- ⑥分離格納式シートベルトを使用するときは、必ずプレートAとバックルAを結合してください。



- 結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



4. SRSエアバッグについての注意

SRSエアバッグについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



4 SRSエアバッグについての注意

①SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。

正しい姿勢でシートに座り、シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときなどにSRSエアバッグの効果を十分に発揮させることができないだけでなく、SRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中を付けた正しい姿勢でシートに座ってください。
- SRSエアバッグの展開部に覆いかぶさったり、近付きすぎた姿勢で乗車していると、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

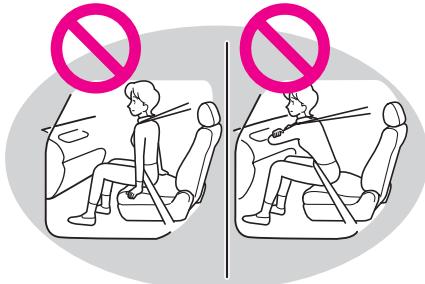
《運転者の方は》

運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近付きすぎないようにして座ってください。



《助手席乗員の方は》

助手席SRSエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シート前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。





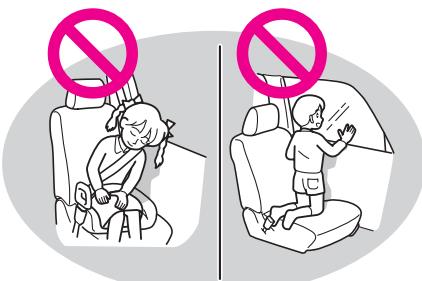
■ひざの上にものをかかえるなど、乗員とSRSエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。

- SRSエアバッグがふくらんだときに、ものが飛ばされ顔にあたったり、SRSエアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。



■ドアにもたれかかったり、フロント・センター・リヤピラーやルーフサイド部に近付かないようにしてください。
(SRSサイドエアバッグ & SRSカーテンシールドエアバッグ装着車)

- SRSエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け危険です。とくにお子さまを乗せるときには、注意してください。



■お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

- SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。





②車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRSエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取り付け・分解・修理などをするとときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。
不適切な作業を行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ危険です。



- SRSサイドエアバッグ & SRSカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロントシートの表皮の張りかえやフロントシートの取りはずし・取り付け・分解・修理が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。

- SRSサイドエアバッグ & SRSカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部や天井の取りはずし・取り付けなどSRSカーテンシールドエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

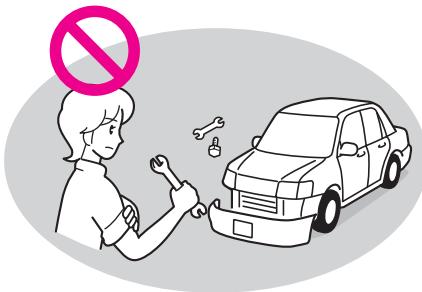


- サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、SRSエアバッグが誤作動し危険です。





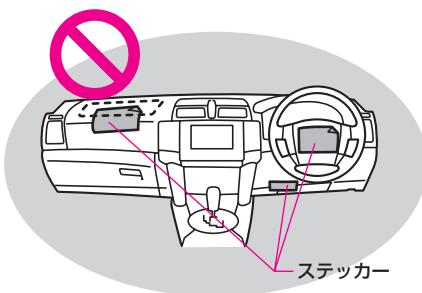
- 車両前部、または車両客室部の修理をするときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。不適切な修理を行うと、SRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。



③カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRSエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

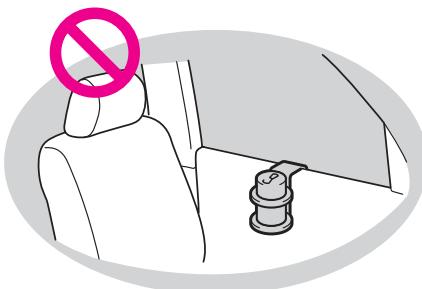
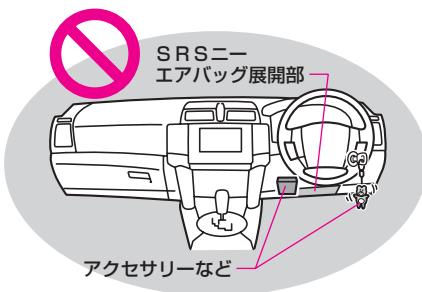


- インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、SRSエアバッグがふくらんだときに飛ばされるなどして危険です。





- スマートエントリー & スタートシステム非装着車は、キーに重いもの・とがったもの・硬いものを付けないでください。SRSニーエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。
- インストルメントパネル下部のSRSニーエアバッグ展開部周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。SRSニーエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。
- SRSサイドエアバッグ & SRSカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取り付けないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがSRSサイドエアバッグ展開部を覆うと、SRSサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。
- SRSサイドエアバッグ & SRSカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取り付けないでください。SRSサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。





- SRSサイドエアバッグ & SRSカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロントウインドウ、フロントドアガラス、サイドドアガラス、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップや天井などSRSカーテンシールドエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイク、ハンガーなどを取り付けないでください。SRSカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。



- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあり、SRSエアバッグが誤作動するなどして危険です。無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

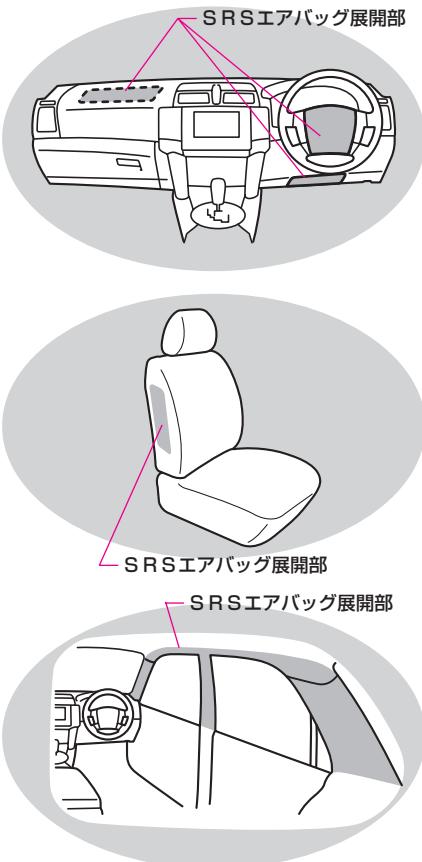
- 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着する場合は、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、SRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグが誤作動するなどして危険です。





④ SRSエアバッグ展開部を強くたたかないでください。

- ステアリングパッド（運転席SRSエアバッグ）、インストルメントパネル上部（助手席SRSエアバッグ）、インストルメントパネル下部（運転席SRSニーエアバッグ）、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部（前後席SRSカーテンシールドエアバッグ）、フロントシート側面（前席SRSサイドエアバッグ）など、SRSエアバッグ展開部を強くたたくなど、過度の力を加えないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



⑤ SRSエアバッグがふくらんだ直後は、SRSエアバッグ構成部品にふれないでください。



- 構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



安全装備について

5. ABS & ブレーキアシストについての注意



ABS & ブレーキアシストについて
は、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や
生命にかかる重大な傷害につながる
おそれがあり危険です。

① ABS & ブレーキアシストを過信しないでください。

- ABS & ブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
ABS & ブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分にとって安全運転に心がけてください。
 - ・ ABSはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロブレーニング現象※が起こった場合は、効果を発揮できません。
- ※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。
- ABSは制動距離を短くするための装置ではありません。
次の場合などは、ABSの付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。
 - ・ 砂利道、新雪路を走行しているとき
 - ・ タイヤチェーンを装着しているとき
 - ・ 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき
 - ・ 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき
- ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。

安全装備について



6. VSC & TRCについての注意

VSC & TRCについては、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

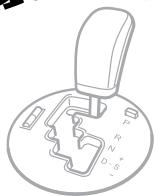
① VSCを過信しないでください。

- VSCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながり、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、VSC作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

② TRCを過信しないでください。

- TRCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながり、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、スリップ表示灯が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

運転装置について



目次



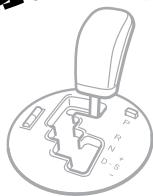
目次

運転装置について 55

- | | |
|------------------------------------|----|
| 1. オートマチック車についての注意 | 56 |
| 2. 4WD車についての注意 | 60 |
| 3. レーダークルーズコントロールについての注意 | 63 |
| 4. スマートエントリー & スタートシステム
についての注意 | 67 |

▶具体的な発生事例

運転装置について



1. オートマチック車についての注意

①オートマチック車の特性

■クリープ現象

エンジンがかかっているとき、チェンジレバーがP・N以外にあると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といいます。

オートマチック車については、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

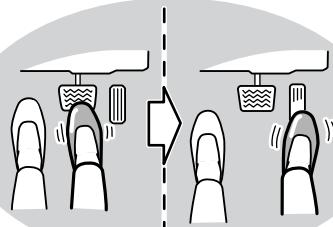


1 オートマチック車についての注意



■キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切りかわり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。これをキックダウンといいます。



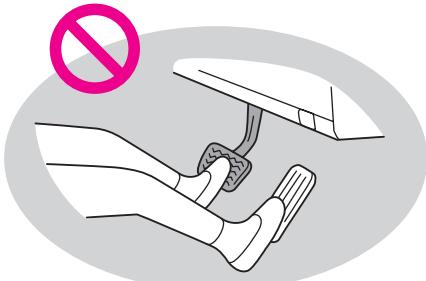
②運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。

- アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 後退するときは、体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。





③ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。



●左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④エンジンをかけるときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、エンジンをかけてください。

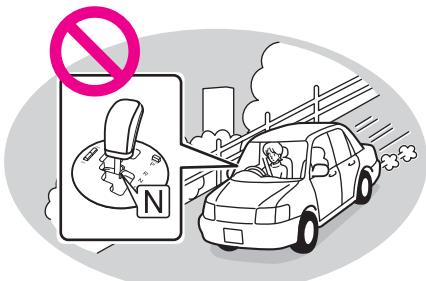
●安全のためチェンジレバーは車輪が固定されるPに入れ、ブレーキペダルをしっかり踏みエンジンをかけてください。

⑤発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままチェンジレバーを操作してください。

●とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

●レバー操作は絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥走行中はチェンジレバーをNに入れないでください。



●Nになると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●Nにしたまま長時間走行すると、オートマチックトランスミッション内のオイルの潤滑が悪くなり、故障するおそれがあります。



⑦走行中はチェンジレバーをPに入れないでください。

- オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧前進で走行中は、チェンジレバーをRに入れないでください。

- 車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。



⑨停車中は、空ぶかしをしないでください。

- チェンジレバーがP・N以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩駐車するときは、チェンジレバーをPに入れてください。

- P以外にある場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪坂道などでは、チェンジレバーをDまたはSに入れたまま惰性で後退することは絶対にしないでください。

- 同様にチェンジレバーをRに入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

⑫その他にも以下の点に注意してください。

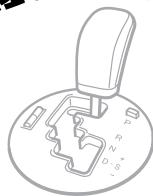
- 少し後退したあとなどは、チェンジレバーがRにあることを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐNにもどすよう習慣付けましょう。
- 切り返しなどでチェンジレバーをDからR、RからDと何度もレバー操作をするときは、その都度、ブレーキペダルをしっかりと踏み、完全に車を止めてから行ってください。またチェンジレバーの位置も忘れずに確認してください。



⑯状況により作動しないことがありますので、NAVI・AI-SHIFTを過信しないでください。(HDDナビゲーションシステム装着車)

- 常に道路状況に注意し、安全な速度で走行してください。
- 応急用タイヤを装着しているときは、NAVI・AI-SHIFTを「しない」にしてください。応急用タイヤを装着しているときは、NAVI・AI-SHIFTが正常に作動しません。「しない」にする方法は、「HDDナビゲーションシステム」取扱書をお読みください。

運転装置について



2. 4WD車についての注意

4WD車については、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。



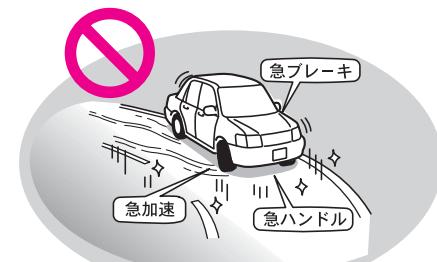
2 4WD車についての注意

①無理な運転は禁物です。



- オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした4WDですので無理な運転はしないでください。

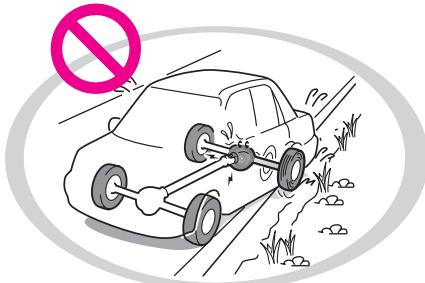
②すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。



- 4WD車といっても万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。



- ③脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。



- 前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤが空転中に急激なブレーキ操作をしないでください。

- ④渡河などの水中走行はしないでください。



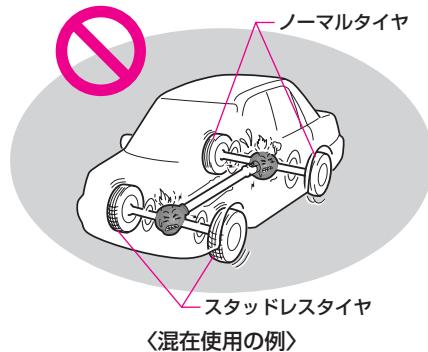
- 渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
- 万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目を点検してください。
 - ・ブレーキの効き具合
 - ・エンジン・トランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
 - ・プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良



⑤タイヤはすべて必ず指定サイズで、同一種類のタイヤを装着してください。

- タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。

- タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼き付きなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。



- 次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。

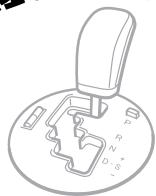
- ・4輪の空気圧の差が著しいとき
- ・空気圧が指定値からはずれているとき

- タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤローテーションを行ってください。

- ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。

▶車両火災を起こさないために

運転装置について

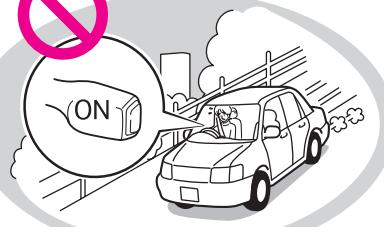


3. レーダークルーズコントロールについての注意

警告

3 レーダークルーズコントロールについての注意

レーダークルーズコントロールについては、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ① レーダークルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチをOFFにしてください。

● 誤ってレーダークルーズコントロールを作動させてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ② レーダークルーズコントロールを過信しないでください。車間距離制御には限界があります。運転するときは常に周囲の状況に注意し、状況によってはブレーキペダルを踏んで減速したり、アクセルペダルを踏んで加速するなどして、先行車や後続車との車間距離を確保し安全運転に心がけてください。

● 車両を停止させるまで自動的にブレーキ操作を行うシステムではありません。また、ブレーキ制御を行いますが減速には限界があり、先行車の減速度合いが大きい場合や自車の前へ他車が割り込んだ場合は十分な減速ができず、先行車に接近することがあります。この場合、接近警報が作動して注意をうながします。また、車速が約40km/h以下になると警告音が“ピッピッ”と鳴ると同時にレーダークルーズコントロールは解除されます。(ブレーキ制御も解除されます。)

- わき見運転やぼんやり運転など前方不注意や悪天候などによる視界不良を補助するものではありません。



③次のような状況のときは、レーダークルーズコントロールを使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐のときなど）では、先行車との車間距離が正確に測定できない場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
なお、ワイパーを低速または高速で作動させると、レーダークルーズコントロールが自動的に解除され、セット待機状態になります。（間欠作動では解除されません。）
- 前方から強い光（太陽光など）を受けたとき、先行車との車間距離が正確に測定できない場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- レーダーセンサー前面に雨滴、雪などが付着している場合では、先行車との車間距離が正確に測定できない場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 交通量の多い道や急カーブのある道では、道路の状況に合った速度で走行できないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面では、タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあり危険です。
- 急な下り坂では、先行車がいないときは自動的にブレーキ操作は行わないため、セットした速度をこえてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、先行車がいて追従走行が行われているときでも、減速するタイミングも遅れるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ひんぱんに加速・減速を繰り返すような交通状況では、道路の状況に合った速度で走行できないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 急な上り坂、下り坂が繰り返される道路では、先行車を検知できず、先行車に接近しすぎるおそれがあるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 高速道路などで、自車のセット車速よりも遅い車に追従走行中に、インターチェンジ・サービスエリア・パーキングエリアなどへ進入する（本線から出る）ときは、自車が本線から出ることにより先行車がいなくなり、セット車速まで加速してしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 停車中の車両や自車速より極端に遅い車両に対しては、レーダークルーズコントロールの制御も接近警報も行わないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。料金所や渋滞の最後尾で停車中や極端に車速の遅い車両などには十分注意してください。
- 近距離ではレーダーセンサーの検知エリアが狭いため、間近で割り込んでくる先行車の検知が遅れたり、自車線の端を走行する二輪車を検知できないため、車間距離が適切に保てずに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- このシステムは先行車のリフレクター部（反射器）を主に検知して制御を行っていますので、次の場合は、先行車を正確に検知できないため、車間距離が適切に保てずに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・先行車がトレーラーなど地上高（リフレクター高さ）の高い車のとき
 - ・先行車の後部の汚れが著しいとき
 - ・先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
 - ・先行車や他車線の車両からの排煙（黒煙）がひどいときや、道路付近に煙が発生して前方が十分見通せないとき
 - ・先行車がリフレクター部にフィルムなどを貼っていたり、リフレクターが付いていなかったり、リフレクター部が破損しているとき
 - ・トランクや後席に極端に重い荷物を積んだとき
 - レーダーセンサーはセンサー前部の汚れを自動で判定し、お知らせする機能を備えていますが万能ではありません。

状況によってはセンサー前部が汚れていても判定できない場合があります。また、透明や半透明（有色含む）のビニール袋が密着した場合や氷、つららなどが付着した場合も判定できない場合があります。このような状況では、車間距離が適切に保てずに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、常に前方に注意して走行してください。なお、汚れを判定した場合、レーダークルーズコントロールは自動的に解除されます。

また、センサー前部はいつもきれいにしておいてください。
 - 道路形状（カーブ路、左右カーブの連続している道路、カーブの出入口、工事中や車線規制などで車線幅が狭い道路など）や自車の状況（ハンドル操作や車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な状況など）によっては、一時的に隣の車線の車両や周辺のものを検知して、制御・接近警報が作動したり、一時的に先行車を検知できず、先行車に接近して、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ④接近警報がひんぱんに作動するような状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。**
- 使用すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⑤レーダークルーズコントロールを定速制御モードで使用するときは、次のことに注意してください。

- 定速制御モード中は、車間制御モード中のように、先行車の有無・先行車との車間距離を判定していないため、接近警報が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。先行車との車間距離に十分注意してください。
- 次のような状況のときは、レーダークルーズコントロール（定速制御モード）を使用しないでください。使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・交通量の多い道や急カーブのある道では、道路の状況に合った速度で走行できないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・凍結路や積雪路などのすべりやすい路面では、タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあり危険です。
 - ・急な下り坂では、エンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度をこえてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



4. スマートエントリー & スタートシステムについての注意

① 心臓ペースメーカーや医療電気機器などをお使いの方は、スマートエントリー & スタートシステムの取り扱いに注意してください。

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器をお使いの方は、スマートエントリー & スタートシステムの発信機から約22cm以内に、植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器を近付けないようにしてください。

電波により植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、スマートエントリー & スタートシステムを使いになる前に医療用電気機器の製造業者などに個別でご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

●スマートエントリー & スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

② スマートエントリー & スタートシステムを使うときは、ロックスイッチの不必要的な長押しや、ドアハンドルへの寄りかかりはしないでください。

●無意識のうちにスマートエントリー & スタートシステム連動閉機構が作動してしまい、ドアガラスやムーンルーフに手や頭などを挟まれて、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

スマートエントリー & スタートシステムについては、次の事項を必ず守ってください。

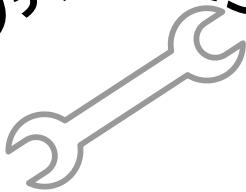
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。





目次

メンテナンスについて



目次

メンテナンスについて	68
1. 点検・手入れ時の注意	69
2. タイヤについての注意	71
3. バッテリーについての注意	77
4. ジャッキアップについての注意	79

▶具体的な発生事例

メンテナンスについて

1. 点検・手入れ時の注意

点検・手入れ時は、次の事項を必ず守つてください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

点検整備の詳細については「メンテナンスノート」をお読みください。

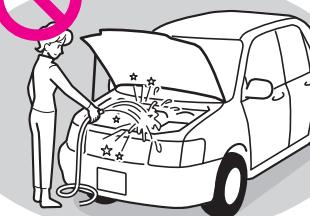


①エンジンルームを点検するときは、必ずエンジンを停止してください。また、火気を近付けないでください

●エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分にふれたり近付いたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジンが停止していても、冷却水温が高いときは、冷却ファンが急にまわり出しますので、注意してください。なお、火気をバッテリーや燃料配管に近付けないでください。爆発し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

②エンジン停止直後はエンジン、排気管、ラジエーターなど高温部にはふれないでください。

●やけどをするおそれがあります。なお、オイルやその他の液体も高温になっていますので注意してください。



③エンジンルーム内に水をかけないでください。

●エンジンルーム内に水をかけると、電装品がショートしたりして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

④車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。



- オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。

- ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、さびてブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。

⑥ヒューズを交換するときは、規定容量以外のヒューズを使用しないでください。

- 配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

⑦エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

- ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⑧エンジンルームを点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

- 点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

▶車両火災を起こさないために

⑨ブレーキフルードの量を点検してください。

- ブレーキフルードが不足していると、ブレーキの効きが悪くなり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



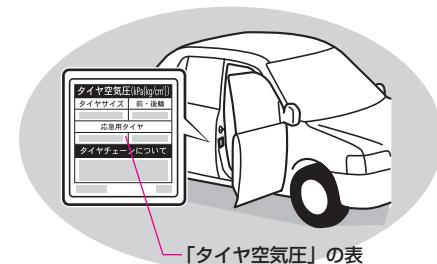
2. タイヤについての注意

①日常点検として、必ずタイヤの点検を行ってください。

- タイヤの点検は、法律で義務付けられています。
- タイヤは以下の点について点検してください。
 - ・タイヤの空気圧
 - ・タイヤの亀裂・損傷の有無
 - ・タイヤの溝の深さ
 - ・タイヤの異常な摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）

タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

②タイヤ空気圧は、必ず指定空気圧に調整してください。



「タイヤ空気圧」の表

- 指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、または取扱書で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。

指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

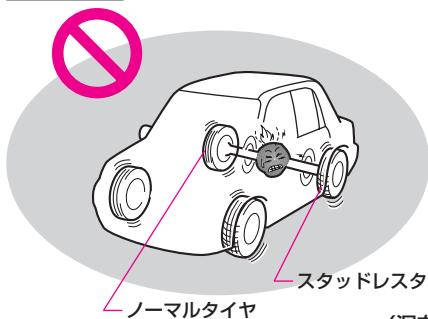
- 超偏平タイヤは、通常のタイヤに比べ空気圧の管理がとくに重要です。超偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤですので、とくに空気圧は適正になるように定期的に点検してください。2週間に1回（最低でも月に1回）、長距離ドライブの前には必ず空気圧の点検をしてください。



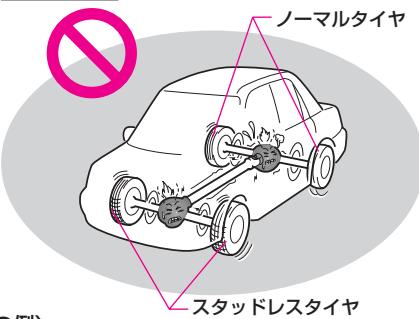
③タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

- タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
- タイヤを混在使用すると、左右タイヤ（4WD車の場合は前後左右タイヤ）で常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼き付きなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

FR車



4WD車



〈混在使用の例〉

- 次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
 - ・4輪の空気圧の差が著しいとき
 - ・空気圧が指定値からはずれているとき
- タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤローテーションを行ってください。
- ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。



●指定以外のタイヤおよび4輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして、正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、下記のシステムなどが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ・ABS & ブレーキアシスト
- ・VSC & TRC
- ・クルーズインフォメーションディスプレイ
- ・レーダークルーズコントロール
- ・AVS
- ・GPSボイスナビゲーション
- ・インテリジェントAFS
- ・バックガイドモニター
- ・電動パワーステアリング
- ・インテリジェントパーキングアシスト
- ・NAVI・AI-SHIFT

また、4WDシステムは、性能が十分に発揮されないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

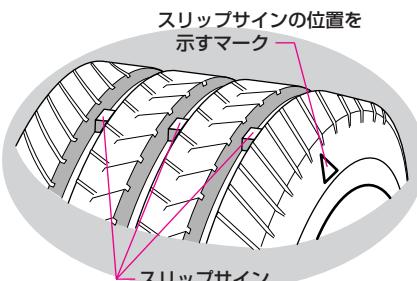
▶車両火災を起こさないために

④摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。

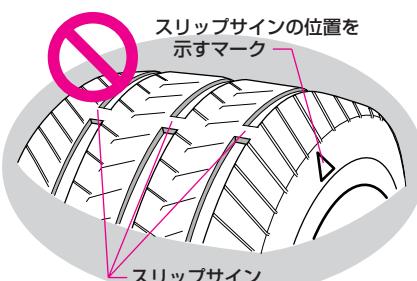
●タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロブレーニング現象^{※1}により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わず事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※1 水のたまつた道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

※2 イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。



〈例：スリップサインが出ていない状態〉^{※2}



〈例：スリップサインが出ている状態〉^{※2}



⑤タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

⑥冬用タイヤ装着時も、必ず標準タイヤと同じ指定サイズで同一種類のタイヤを装着し、指定空気圧で走行してください。

- 冬用タイヤ装着時も標準タイヤと同様です。

⑦タイヤチェーン装着時は、速度を控えて慎重に運転してください。

- タイヤチェーン装着時は、約30km/hまたはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響を与えるため必ず慎重に走行してください。
- タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わず動きをして事故につながるおそれがあり危険です。
また、A B S作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

⑧段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

- 段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃により、タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑨歩道の縁石などにタイヤがあたらないように注意してください。

- タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑩ タイヤを交換したときは、ホイール取り付けナットが確実に締まっていることを確認してください。



- 確実に締まっていないと、ホイール取り付けボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
- タイヤを取り付けるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。必要以上に締め付けると、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪ ディスクホイール取り付けボルト、ナットのねじ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。

- つぶれや亀裂などの異常があると、ナットを締め付けても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑫ ディスクホイールを取り付けるときは、シート部や裏側の取り付け面が汚れていないか確認してください。

- ディスクホイールのシート部や、ホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にホイール取り付けナットがゆるみ、タイヤがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑬ 超偏平タイヤは、通常のタイヤより路面からの衝撃によるタイヤ・ディスクホイールへのダメージが大きいので、以下の点に注意してください。

- 常に適正な空気圧で使用してください。タイヤ空気圧が低いと、さらにダメージを受けやすくなりますので、空気圧の定期的な点検を行ってください。
- 段差、凹凸路面の走行はできるだけ避けてください。やむを得ず走行するときは、できるだけゆっくり注意して走行してください。

(14) 応急用タイヤについては以下の点に注意してください。

- 応急用タイヤは標準タイヤがパンクしたときに、一時的に使用するタイヤです。できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車に搭載されている応急用タイヤは、お客様の車専用です。他のタイヤやディスクホイールと組み合わせたり、他の車に使用したり、他の車の応急用タイヤをお客様の車に使用しないでください。走行に悪影響が出て思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

(15) 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。

- 走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっています。タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。



①日常点検として必ずバッテリーの液量を点検してください。

●バッテリーの液面が各液槽とも、バッテリー側面に表示されたLOWER LEVEL（下限）以下のまま使用、充電すると、バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。点検方法は「メンテナンスノート」を参照し、液量が少ないとときは補給してください。

②バッテリーあがりで、ブースターケーブルをつなぐときは、接続順や接続箇所を間違えないように注意してください。

●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③エンジンがかかっているときや充電中は、バッテリーに近付かないでください。



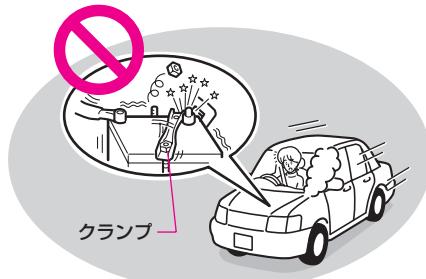
●充電中は、バッテリーから有毒で腐食性の高い希硫酸を含んだバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、失明など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

万一、付着した場合は、すぐに衣服を脱ぎ、液が付着した体の部分を多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。



④火気をバッテリーに近付けないでください。

- バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⑤バッテリーを交換したときは、正しい位置にクランプを取り付け、ナットを確実に締め付けてください。

- 確実に取り付けたり、締め付けたりしないと、走行中にクランプがはずれてショートするなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

▶車両火災を起こさないために

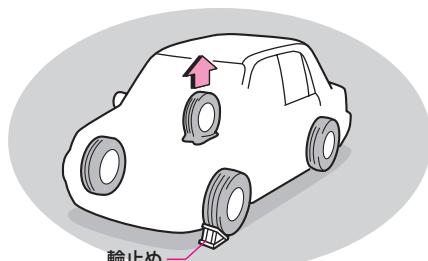


ジャッキアップについては、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ① ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角的位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。



- 車が動きジャッキがはずれ、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。なお、輪止めはトヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
- 輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

- ② ジャッキアップした車の下には、絶対にもぐらないでください。



- 万一、ジャッキがはずれると、体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車載工具のジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外は使用しないでください。



③ジャッキアップするときは、次の点に注意しないと、車体が損傷したり、ジャッキがはずれたりして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 人を乗せたままジャッキアップをしないでください。
- ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
- ジャッキアップするときは、ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを必ず確認してください。
- 車体は、タイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
- ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
- ジャッキアップした車体を降ろすときは、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。

④車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。

- 他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。

- 室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- ⑥車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、次のことをお守りください。
- 車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。



警告

目次

オーバーヒート・万一の事故	82
1. オーバーヒートについての注意		83
2. 万一の事故のときの注意		84

▶具体的な発生事例



1. オーバーヒートについての注意

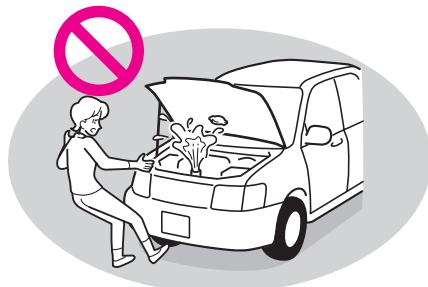
① オーバーヒートし、ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。

オーバーヒートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



●エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも、高温になっている部分がありますので、ボンネットを開けるときは十分注意してください。

② ラジエーターやリザーバータンクが熱いときは、ラジエーター キャップを開けないでください。



●蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●キャップを開けるときは、ラジエーターやリザーバータンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包み、ゆっくりと開けてください。





2. 万一の事故のときの注意

①エンジンをかけずにけん引される場合は、ハンドルやブレーキ操作に十分注意してください。

- エンジンがかかっていないと、パワーステアリングやブレーキ倍力装置が働かないため、操作力が非常に重くなります。けん引される車の運転は、十分注意して行ってください。
- けん引される場合は、チェンジレバーをNにして、パーキングブレーキを解除してください。

②けん引中に、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。



- けん引フックやロープが破損し、それが周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

③けん引中に、電源をOFFにしないでください。 (スマートエントリー & スタートシステム装着車)

- ハンドルがロックされてハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④けん引中に、キーを抜いたり、エンジンスイッチをLOCKの位置にしないでください。 (スマートエントリー & スタートシステム非装着車)

- キーが抜いていると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジンスイッチがLOCKの位置にあるとキーが抜けるおそれがあります。

次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。



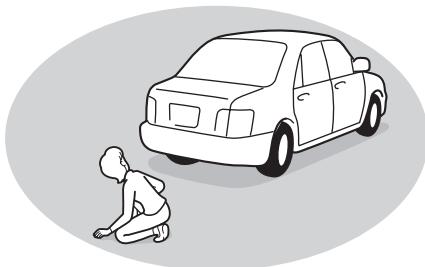


⑤発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。また、発炎筒を使用中は、顔や体に向けたり、近付けたりしないでください。



●可燃物の近くで使用すると引火して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、使用中に顔や体に向けると、炎でやけどするなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑥事故後、エンジンを始動する前に燃料がもれていないか確認してください。



●車の下の路面などを確認し、液体のものれ（エアコンの水以外）が見つかれば、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままエンジンを始動すると燃料に引火し、重大な事故につながるおそれがあり危険ですので、エンジンを始動しないでください。

この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。



警告

目次

その他の注意



目次

その他の注意 86

▶具体的な発生事例

その他の注意



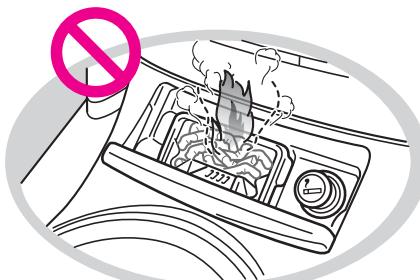
次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や
重大な傷害におよぶか、最悪の場合死
亡につながるおそれがあります。



①違法改造は絶対にしないでください。

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
 - ・電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

②灰皿の使用後は、マッチ・タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。



- 開けたまま放置すると、車両火災につながるおそれがあり危険です。また、灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。



③カップホルダーには、カップや飲料缶、紙パック以外のものを入れないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあり危険です。また、使用していないときは閉めておいてください。

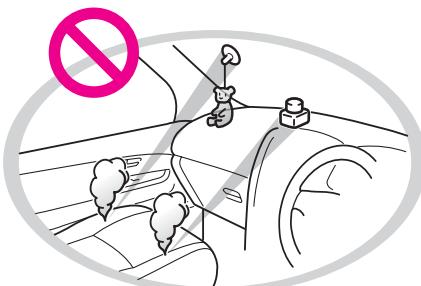
④シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドゥを開けたまま放置しないでください。

●ドアやウインドゥを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⑤ライターを車内に放置したままにしないでください。

●ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしないでください。荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

⑥ウインドゥガラスなどには吸盤を付けないでください。



●ウインドゥガラスにアクセサリーの吸盤を取り付けたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置くと、吸盤や容器がレンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。

▶車両火災を起こさないために

⑦トランクには人を絶対に乗せないでください。



●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が飛ばされ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



⑧ディスチャージヘッドライトを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
(ディスチャージヘッドライト装着車)

●電球ソケットにふれた状態で点灯操作をすると、瞬間に高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑨電球を交換するときは、電球が冷えてから交換してください。

●電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。

⑩ミラーヒーター作動中はドアミラーの表面が熱くなりますので、手をふれないでください。(ミラーヒーター装着車)

●やけどをするおそれがあり危険です。

⑪フロントワイパーデアイサーの作動中はガラスの下部と運転席側フロントピラー周辺部の表面が熱くなりますので、手をふれないでください。(フロントワイパーデアイサー装着車)

●やけどをするおそれがあり危険です。

⑫プラズマクラスターイオン発生器は高電圧を利用しています。
(プラズマクラスター装着車)

●危険ですので、修理等は必ずトヨタ販売店にご相談ください。

⑬電子キーやワイヤレスドアロックリモコンキーのバッテリー交換時に、取りはずしたバッテリーや部品をとくにお子さまが飲み込まないように注意してください。

●飲み込むと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑭リヤサンシェード装着車は、電動リヤサンシェードに手をかけないでください。

●電動リヤサンシェード収納時に、布などを巻き込むおそれがあり故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。



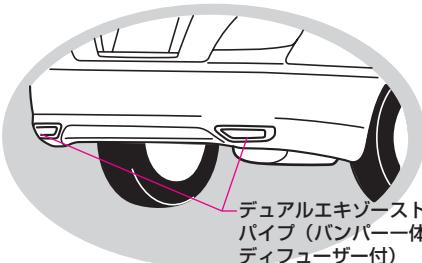
⑯車内のスイッチなどに飲みものなどをこぼさないよう注意してください。

- インストルメントパネル、コンソールボックス、ドアなどにあるスイッチなどに飲みものがかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、スイッチに飲みものがかかった場合は、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

▶車両火災を起こさないために

⑯エンジンがかかっているとき、またはエンジン停止直後に、排気管およびデュアルエキゾーストパイプ（バンパー一体ディフューザー付）にふれないように注意してください。

- エンジンがかかっているときやエンジン停止直後の排気管およびデュアルエキゾーストパイプ（バンパー一体ディフューザー付）は高温になっています。荷物の積み降ろし時などに手や足がふれると、やけどをするおそれがあります。



⑰キーまたはメカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠するときは、不必要にキーをまわし続けないでください。

- 無意識のうちにドアキー運動開閉機構が作動してしまい、ドアガラスやムーンルーフ（ムーンルーフ装着車）に手や頭などを挟まれて、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**⑱電子キーのワイヤレスドアロックリモコンスイッチでドアを施錠・解錠するときは、不必要にスイッチを押し続けないでください。
(スマートエントリー & スタートシステム装着車)**

- 無意識のうちにワイヤレスドアロック機能運動開閉機構が作動してしまい、ドアガラスやムーンルーフに手や頭などを挟まれて、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



**(19) ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。
(ヒルスタートアシストコントロール装着車)**

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。極端に急な上り坂、凍結した上り坂、泥状の上り坂では発進が困難な場合があります。慎重に発進してください。
- 上り坂で車を停止（保持）するためにヒルスタートアシストコントロールを使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

(20) 寒冷時は、ウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。

- ウォッシャー液がウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。